

みずじかる信濃

伊勢社

発行責任者
氏子総代
渡辺吉昭

氏子の皆様こんにちは、令和二年から総代になってほぼ二年が過ぎようとしています。この間氏子の皆様から伊勢社について沢山の知識やご意見をいただき有難うございました。

そんな環境のなかで私が総代になってから「見たり・聞いたり」した素朴な疑問について記してみたいと思います。

「伊勢社はいつ頃からあるの」でしょうか

総代になって素朴な疑問でした。伊勢社は上高田「芋井神社」から分社したということですが。

昔は両区とも芋井神社が産土神（うぶすながみ・生まれた土地の守護神）として崇敬されていましたが、両村の間が離れすぎており祭などにもさしさわりがあつたため文化三年（一八〇六年といわれる）に当時の名主持ちの神明社（天照大神もしくは

伊勢両宮祀る社の総称）を村持ちにして現伊勢社を下高田村の産土神としたとのことです。

鳥居の役割と種類は

参道に建つ立派な大鳥居は神社入口を示すもので、人間の住む俗界と神社内の神聖な場所との境界を表し神域への入口を示すものです。

この鳥居にも様々な種類があり、大別すると「神明鳥居（しんめい）鳥居」と「明神（みょうじん）鳥居」分けられるそうです。現在の鳥居は昭和四二年に寄贈されたもので、伊勢社の鳥居は二本の柱の上につきすぐな横柱を乗せ、さらに柱と柱の間に



参道入口に立つ大鳥居
株式会社青木鐵工所
故・青木義美様より
寄贈されました

もう一本の横柱を渡したシンプルな形で、その特徴からこの鳥居の形式は歴史的に最も古いタイプの神明鳥居で伊勢神宮の

それと同じだそうです。近隣の神社の鳥居と比べてみてください。

伊勢社一帯が 区民の皆様の広場



伊勢社側から見た新公民館

伊勢社北側の古牧児童館跡地に令和五年三月竣工を目標に南高田区新公民館新築工事が進められており、この新公民館と伊勢社と間には公園があります。

公園と新公民館そして伊勢社の境内一帯が区民の皆様の憩いの場になるよう環境整備をしていきます。



クラウドファンディング実施中
令和4年12月19日から
令和5年2月16日23時まで



詳しくは南高田ホームページからアクセスしてください
←こちらからどうぞ